

2 未来につなぐ伊達の実現に向けて

私は、「子どもの笑顔が真ん中にあるまち」を基本理念として、

- ・「子どもたちの自信と笑顔があふれるまちづくり」
- ・「子育てがしやすいまちづくり」
- ・「安心・安全に生活をおくれるまちづくり」
- ・「地域経済に活気のあるまちづくり」
- ・「市民一人ひとりの声を受け取るまちづくり」
- ・「持続可能で充実した行政サービスを提供できるまちづくり」
- ・「伊達市の将来を見据えたまちづくり」

以上の7項目を重点施策と位置づけ、取り組んでまいります。

1点目の「子どもたちの自信と笑顔があふれるまちづくり」についてであります。

最大の地域課題である人口減少対策として、若い世代が安心して子どもを育てられるまちづくりを進めてまいります。そのためには、質の高い教育の実現が重要であり、学力の向上はもとより、地域の特色を生かしながら、学校と地域が一体となって子どもが健やかに学び成長できる環境づくりに努めます。

子どもの可能性を広げるためには、多くの経験と様々なチャレンジを支える取組が必要と考えております。小中学生の資格取得への支援を行うほか、一人ひとりの社会的自立に向けて、主体的に考え課題解決につながる能力を育む「だて学」の充実を図ってまいります。これらの取組を通じ、子どもたちの探究的な学びを深め、本市の地域資源を活用し魅力ある教育を受けられる環境づくりを進めてまいります。

また、市立学校の普通教室等へのエアコン設置を進め、快適な学習環境の確保に努めてまいります。

2点目の「子育てがしやすいまちづくり」についてであります。

子育て世帯の経済的な負担軽減を図るため、昨年から、学校給食費の助成及び一部無償化を実施しているほか、本年8月からは、子ども医療助成制度の対象を18歳まで拡大する予定であります。

妊産婦の体調不良や陣痛などの緊急時に、家族等のサポートが受けられない場合の移動の負担軽減を図り、安心・安全に受診や出産ができるよう、自宅から産科医療機関に向かう際のタクシー代の一部助成を実施します。

また、妊娠期から出産・子育てまで一貫して相談に応じる伴走型支援と給付金による経済的支援を一体的に実施し、妊婦及び子育て世帯の心理的、経済的負担の軽減を図ってまいります。

これまでの施策と合わせて、より安心して子どもを育てられる環境づくりを推進してまいります。

3点目の「安心・安全に生活をおくれるまちづくり」についてであります。

近年、各地で相次ぐ自然災害のほか、有珠山噴火のリスクがある本市においては、市民の生命や財産を守るための防災対策やインフラ整備は重要であると認識しております。

また、将来にわたり安心して住み続けられるまちとなるためには医療体制の確保は必要不可欠であり、公的病院である伊達赤十字病院と地域医療の在り方について引き続き協議を続けてまいります。

加えて、人々の価値観も多様化している現代において、本市の教育や文化などを生かし、心の豊かさを感じられるまちづくりを進めることも、魅力ある地域を創り上げていくうえで重要であります。生涯学習の拠点の一つである伊達市立図書館の再整備については、検討委員会や市民の皆さまから多くのご意見をいただき検討を進めているところです。読書や学びを通じて、多世代が集い、多くの方から親しまれる施設となるよう取組を進めてまいります。

4点目の「地域経済に活気のあるまちづくり」についてであります。持続可能なまちづくりには、市内経済の活性化が重要です。

本市の基幹産業である農業をはじめとした第一次産業が本市の強みであり、既存の産業を生かしながら、産業の創出や多角化を目指してまいります。

また、ふるさと納税制度を十分に活用することにより、地場製品の販路拡大、事業者の売上向上を図るとともに、事業者や関係団体と連携しながら、地域経済の活性化と伊達市の認知度向上につなげてまいります。

併せて、積極的なトップセールスも含めこれまで以上に企業誘致を進め、新たな雇用を生み出し、伊達に住み続けられる環境づくりに努めてまいります。

5点目の「市民一人ひとりの声を受け取るまちづくり」についてであります。

行政だけでなく市民や関係団体など様々な方の力を借りながら、一体となってまちづくりを進めることが重要と考えております。過日開催されたタウンミーティングや都市計画マスタープランの住民懇談会においては、多くの声をいただくとともに、市の現状や取組を説明し、理解を深め合う機会となりました。

市民協働のまちづくりを進めるためには、市の施策や情報を多くの方と共有し、共に考え行動することが重要であります。そのためにも、市の取組に興味関心を持っていただけるよう、市政のわかりやすい情報発信と市民との積極的な対話を進めてまいります。

伊達市協働まちづくり推進事業「みんなでちょこっとまちづくり“ちょこまち”」や室蘭工業大学と連携して実施する「S I P（戦略的イノベーション創造プログラム）事業」など、まちの課題解決や魅力向上のために「まちづくりの自分ごと化」の意識を醸成し、市民力が発揮される環境づくりに努めてまいります。

6点目の「持続可能で充実した行政サービスを提供できるまちづくり」についてであります。

充実した行政サービスを提供するためには、持続可能で安定した財政基盤が必要です。人口減少や少子高齢化に伴う社会保障費の増大や税収の減少など、今後の地方財政はさらに厳しい環境となることが予想されることから、必要な事業の精査とDXの推進による効率的な業務改善及び市民サービスの向上に努めてまいります。

また、伊達開来高校と連携し、若い世代や小中学生も含めた子どもたちの意見を聴きながら、今後の伊達市のまちづくりについて共に考えてまいります。

7点目の「伊達市の将来を見据えたまちづくり」についてであります。

現在、人口減少をはじめ、少子化や高齢化の進行、頻発する自然災害への対策など多くの課題に直面しておりますが、これらの諸課題に立ち向かい、次の世代に魅力ある伊達市を引き継いでいく必要があります。

若者の定住促進と地域の人材確保を目的として、奨学金の返還支援の助成を行います。また、公共交通については、通学、買い物、通院など日常生活を支えるための交通手段の確保が求められています。子育て世帯や高齢者も将来にわたり安心して住み続けられるまちとするためにも、公共交通事業者や関係団体等と連携しながら、伊達市の将来を見据えた持続可能な交通体系の検討を進めてまいります。

私たちを取り巻く社会状況の変化に対応するべく、柔軟かつスピード感を持って施策を打ち出していく必要があります。

これらの施策を進めるにあたり、市民目線に立った、わかりやすい情報発信に努め、多くの皆さまに市の取組を知っていただき、まちづくりの方向性を共有してまいります。